
年 報

平成 30 年度 (2018)

令和元年度 (2019)

I 博物館の運営

1 沿革—総合博物館から歴史博物館へ—

年	事項
昭和46年(1971)	旧高田市が市制60周年記念事業として建設
昭和47年(1972)	4月1日、上越市立総合博物館条例施行 4月5日、開館。スキー、考古、歴史、民俗、自然科学5部門の資料収集・展示。 上越市立総合博物館協議会条例制定 施設概要 延べ1279㎡、総工費約1億3,300万円
昭和62年(1987)	4月1日、「上越市立総合博物館協議会条例」と「上越市立水族博物館協議会条例」が廃止、「上越市博物館協議会条例」を制定し、両館を統合した博物館協議会を設置。
平成4年(1992)	日本スキー発祥記念館条例施行 日本スキー発祥記念館開館に伴い、スキー資料を移管
平成12年(2000)	7月、増改築工事開始 新館増築およびラウンジ等改修
平成13年(2001)	9月29日、リニューアルオープン。考古、歴史、民俗、美術4部門の資料収集・展示。 *新館に小林古径記念美術館を併設
平成17年(2005)	1月1日、14市町村合併（上越市、安塚町、浦川原村、大島村、牧村、柿崎町、大潟町、頸城村、吉川町、中郷村、板倉町、清里村、三和村、名立町）に伴い、各町村の郷土資料館および所蔵資料を移管。 平成22年度から牧区、頸城区を除く各区民俗資料を黒岩拠点収蔵施設（柿崎区）岡沢拠点収蔵施設（中郷区）への資料移動事業開始（平成30年度終了）
平成25年(2013)	都市再生整備計画に記載、空調設備工事
平成26年(2014)	改修工事及び常設展示に関する検討
平成27年(2015)	プロポーザルによる基本設計業者選定。基本設計は(株)乃村工藝社。
平成28年(2016)	実施設計、工事契約、改修工事（久保田・大栄JV） 4月1日、日本スキー発祥記念館が上越市文化振興課から移管。 11月から増改築工事のため休館
平成29年(2017)	改修工事
平成30年(2018)	3月31日、竣工。 4月1日、総合博物館美術部門資料を小林古径記念美術館に移管。 7月21日、上越市立歴史博物館開館 8月、上越市立水族博物館所蔵重要有形民俗文化財「どぶね」移管。 開館記念展として「榊原康政の遺宝」、「川上善兵衛展」を開催。
令和2年(2020)	高田城三重櫓が上越市文化振興課から移管。
令和3年(2021)	黒岩拠点収蔵施設資料を岡沢拠点収蔵施設に移動

2 施設概要



- (1) 名 称 上越市立歴史博物館
 (2) 所 在 地 新潟県上越市本城町7-7（高田城址公園内）
 (3) 建築構造 鉄筋コンクリート構造、本館地上2階 新館地上3階
 (4) 面 積 敷地面積 8313.98 m²
 延床面積 2570.53 m²

【主要施設面積】

区 画	用 途	床面積 (m ²)
展示室	常設展示室	564.64
	企画展示室1	111.31
	企画展示室2	96.01
	講堂・企画展示室3	106.44
収蔵庫	収蔵庫1・2	296.81
研 究	資料整理室・書庫	111.90
	研究室	15.21
	閲覧室	25.34
共 用	カフェ・ショップ	116.76
	ラウンジ	162.22
	エントランスロビー	61.86
	授乳室	2.63
	ロッカー室	2.70
	屋上展望デッキ	170.00

(5) 設計及び開館年月日

- ・総合博物館建築・開館 昭和47年（1972）4月5日
設計 （株）石本建築事務所
- ・新館建築・開館 平成13年（2001）9月29日
設計 （株）ブラハマ・アソシエイツ都市建築研究所
- ・歴史博物館改修・開館 平成30年（2018）7月20日
設計 （株）乃村工藝社

(6) 総合博物館改修工事事業費内訳（平成27年度から平成29年度）

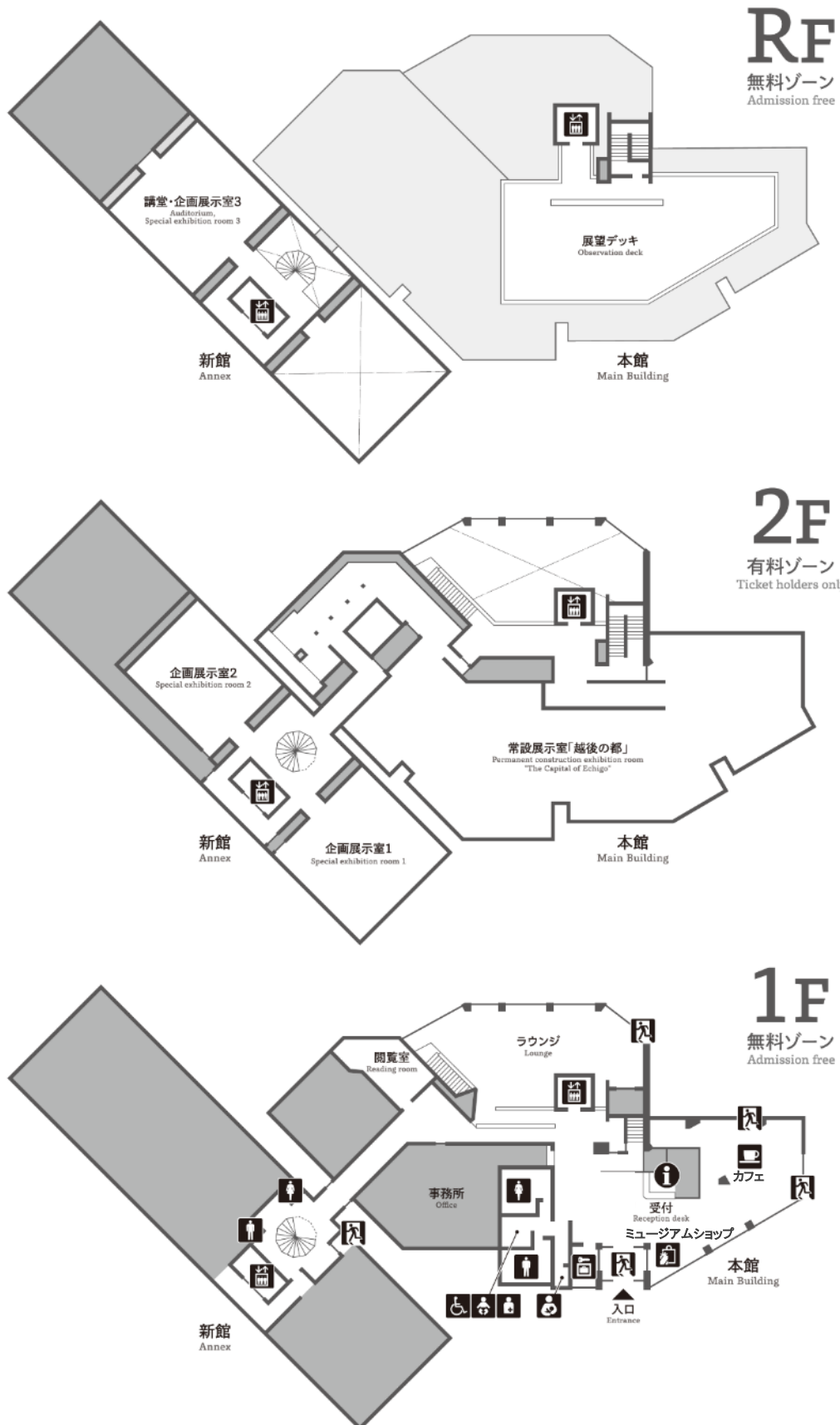
【歳入】 (千円)

区分	No.	項目	事業費
歳入	1	国庫支出金（社会資本整備総合交付金）	231,097
	2	市債	255,500
	3	一般財源	44,892
計			531,489

【歳出】 (千円)

区分	No.	項目	事業費
歳出	1	基本設計	10,800
	2	実施設計	30,996
	3	地質調査	1,926
	4	構造計算適合性判定	180
	5	施工管理	12,009
	6	展示物下地等造作工事	65,010
	7	展示物制作・空間演出工事	149,635
	8	大規模改修工事	207,439
	9	大規模改修電気工事	27,043
	10	大規模改修機械設備工事	26,451
計			531,489

(7) 館内図



3 歴史博物館の役割

(1) 上越市立歴史博物館条例（抄出）

（設置）

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、市民の教育、学術及び文化の向上を図るため、歴史博物館を設置する。

（事業）

第3条 上越市立歴史博物館(以下「歴史博物館」という。)は、第1条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 郷土を主とした歴史、民俗、考古、スキー等に関する資料(以下「資料」という。)の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 資料の調査研究に関すること。
- (3) 資料の利用についての必要な説明、助言、指導等に関すること。
- (4) 資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の主催及びその開催の援助に関すること。
- (5) 資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (6) その他目的達成に必要な事業

(2) 理念と機能

① 3つの理念

ア. 市民が地域の歴史を学ぶ場

調査研究機能を強化し、市民の歴史への関心にこたえる場となる。

イ. 市民と地域を結ぶ場

博物館から城下町への回遊、市内各博物館等施設や史跡等への誘いの出発地となる。

ウ. 歴史を生かした町づくりを担う次世代育成の場

常設展示等により、地域の子供たちが郷土への理解と愛着を育む場となる。

② 2つの機能

ア. 教育普及機能

常設展示、企画展示等の開催、歴史講座、出前講座・史料購読講座、講演会等の開催、小中学校の見学対応、市民のレファレンスへの対応等によって地域への還元を図る。

イ. 調査研究機能

調査研究、収集、保存管理、研究論文の執筆、及び研究紀要、資料集、資料目録等の刊行等の事業によって地域史研究の蓄積を図る。

4 常設展示の概要

(1) 常設展示のコンセプトー常設展示室あいさつ文から

ごあいさつ

私たちが住む上越市は、かつて越後の国の政治・経済の中心地である越後国府が置かれ、「越後の都」として栄えました。戦国時代、守護代であった長尾氏によって春日山城が築かれ、やがて福島城、高田城へと城は移っていきましたが、「越後の都」の地位もまた、福島城、高田城へと引き継がれていったのです。

歴史博物館では、常設展示の整備にあたり、昭和の大合併、平成の大合併を経た現在の上越市の歴史に太い一本の幹を作りたいと考えました。それはやはり「越後の都」の歴史であろうと考えます。もちろん、この展示の中にすべての上越市の歴史が収められるわけではありません。「越後の都」であった上越市には、私たちの祖先のさまざまなくらしが今も豊かに息づいています。今後、この幹がしっかりと根を張り、大きな樹となり、地域に生きた無数の人々の歴史が、この樹に繁っていくよう努めていきます。この貴重な歴史や文化遺産の樹を多くの人々に、そしてこれからの社会を担う子どもたちに語り継いで行きたいと考えています。

(2) 展示構成

○ラウンジー上越の歴史を歩こう（利用無料）

無料で利用できるラウンジー一杯に広がる上越市の航空写真は、「上越の歴史を歩こう」と名付けられたコンテンツ。上越の 1/5500 の航空写真の上を歩きながら、上越市の地勢・地形を学んだり、春日山・福島・高田の三城の位置を確認したりできる。各区ごとに配置された QR コードをスマートフォン等の端末で読み取ると、その区の歴史スポット情報が表示され、現地へ出かけるきっかけとする。

○プロローグ

常設展示入口となる壁面には、上杉景勝時代に作成された国指定重要文化財「越後国頸城郡絵図」（米沢市上杉博物館所蔵）が原寸大写真で来館者を迎え、約 420 年前の上越市域の東半分について、安土桃山時代の村々の様子が表現されている。また、越後国府至徳寺跡出土の遺物から国府の繁栄を理解する。



○第1章 「越後の都」

中世越後国府と春日山城、上杉謙信の登場から堀家による福島築城までを解説する。ゾーン中央には上越市中心市街地の地形白模型を配置し、そこにプロジェクションマッピングによって、越後国府・春日山城が福島城へ、福島城が高田城へとその地位を継承していく経緯と時代背景を解説する映像プログラム「越後の都」を上映する。



○第2章 徳川の城

松平忠輝の越後入封、高田築城から松平光長時代まで、徳川家一門による治世を解説する。この時代、大規模に行われた用水開発や新田開発、そして徳川家一門時代に終止符を打った越後騒動について触れるほか、ゾーン中央には、松平光長時代の様子を復元した1/550の高田城模型を配置する。模型の周囲には城下町の床マップが広がり、ここでもQRコードによって各町の情報が得られるほか、4台のタッチパネル端末を配置し、映像コンテンツ「VR 高田城案内」によって、城下町から高田城内までを小栗美作のキャラクターが道案内する。



○第3章 榊原家の時代

江戸時代後半 130 年にわたって高田藩主を勤めた榊原家の時代を紹介する。大名榊原家の史料をはじめ、江戸時代後半の城下町の商職人や湊町直江津今町について解説するほか、高田藩と上越地域を巻き込んでいった長州戦争・戊辰戦争と続く幕末維新时期も大きく取り上げる。ゾーン中央には2メートル四方の高気密展示ケースを配置し、榊原家や榊神社が所蔵する榊原家の文物を紹介する。また、絵図画像ビューワー「城下町の姿」では、時代ごとの高田城下絵図をプロジェクターで壁面に映し出し、時代によって変化する河川流路や、大名の転封によって変化する武家町や城下町の様子を比較することができる。

○第4章 近代の上越

自由民権運動、石油産業、鉄道の敷設、陸軍師団の誘致、日本スキー発祥、観桜会の始まりなど変わりゆく上越の姿を紹介する。ゾーンの中央には、陸軍第十三師団誘致以後の高田市街地図をプロジェクションマッピングによって映し出し、明治から大正期の写真を紹介しながら、町の変化を楽しむ「幻燈模型・明治大正高田案内」を配置する。



○第5章 雪国のくらしと民俗

雁木町家、雪と道具、下駄屋の店先、高田瞽女から構成される。地域特有の履物である箱下駄を中心に据えつつ、雁木通りの町並や雪と暮らしを紹介するほか、高田瞽女杉本キクイとその姿を描き続けた斎藤真一の絵画を紹介する。「越後高田瞽女宿之図」を展示ケース背景に大きく引き伸ばして展示し、瞽女宿の分布を示すとともに、大正、昭和の上越地域を俯瞰することができる。



○エピローグ 上越の近代

昭和20年以降の上越市の年表と、市民から募った昭和の古写真をデジタルフォトフレームで次々に映すコンテンツで構成する。

○その他：デジタルコンテンツ「もっと知りたい 歴史ナビ」

上越市の歴史事象を人物、できごと、民話・伝説の3つのカテゴリーで紹介するタッチパネル端末を2台設置する。

（3）収蔵資料の概要

①所蔵資料

ア．歴史資料 約1,000点

台帳無し（今後寄贈台帳との突合及び資料台帳の整備が必要）

※近世の美術資料及び楊洲周延の肉筆・錦絵資料等を含む

イ．民俗資料

平成18年度から令和2年度まで、民俗資料整理事業として旧市及び合併前各町村が収集した民俗資料の再台帳化・データベース化作業、及び収蔵施設の統合を実施した。

旧収蔵施設	現収蔵施設	移動年度	点数
総合博物館（本城収蔵庫含む）	岡沢拠点収蔵施設	H28	10,549点
安塚歴史民俗資料館	岡沢拠点収蔵施設	H28	2,656点
浦川原まなびいハウス	岡沢拠点収蔵施設	H26	524点
大山広場民俗資料室	岡沢拠点収蔵施設	H30	382点
牧歴史民俗資料館	牧歴史民俗資料館	—	1,160点
旭地域生涯学習センター	黒岩拠点収蔵施設	H24	63点
下牧多目的センター	岡沢拠点収蔵施設	H26	190点
大潟区	黒岩拠点収蔵施設	H22	1,252点
希望館	希望館倉庫	—	776点
源地域生涯学習センター	岡沢拠点収蔵施設	H25	706点
片貝縄文資料館	岡沢拠点収蔵施設	H24	194点
板倉郷土館	岡沢拠点収蔵施設	H25	821点
清里歴史民俗資料館	岡沢拠点収蔵施設	H28	315点
米と酒の謎蔵	岡沢拠点収蔵施設	H30	916点
下名立地域生涯学習センター	岡沢拠点収蔵施設	H29	7,454点
合計			27,958点

※平成28年度以降の寄贈資料について未台帳化、約1,500点

ウ. 委託資料

- i 榊原家史料（県指定文化財） 1,774 件（2,615 点）
大名榊原家の史料群で、『高田藩 榊原家史料目録・研究』（上越市立総合博物館、2009 年）に収録される。一部、榊神社宝物館双輪館に収蔵する史料がある。
- ii 府中八幡宮資料 101 点
鰯口（新潟県指定文化財）及び府中八幡宮文書（上越市市指定文化財）94 点を含む。
- iii 顕法寺資料（上越市指定文化財） 3 件
- iv 伊達政宗書状（上越市指定文化財「本誓寺文書」のうち） 2 通 1 巻
- v 太刀 銘助宗（密蔵院所蔵、新潟県指定文化財） 1 点
- vi 吉川区神田町町内会 3 点
- vii 菅原神社文書（上越市指定文化財） 12 点
- viii 御所参内・聚楽第行幸図屏風 1 点
- ix 火縄銃（越後高田住野々山源助義春） 1 点

5 利用者数

(1) 平成 30 年度入館者数

	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
総入館者数	4,256	9,688	5,522	5,227	4,787	1,970	2,324	3,626	3,734	41,134
展示観覧者数	1,655	3,839	2,181	2,150	2,031	451	955	2,001	841	16,104
有料観覧	1,345	3,204	1,752	1,736	1,404	376	507	380	482	11,186
無料観覧	310	635	429	414	627	75	448	1,621	359	4,918
無料スペース利用者	2,601	5,849	3,341	3,077	2,756	1,519	1,369	1,625	2,893	25,030

※無料スペース利用者はカフェ・ラウンジ・屋上展望デッキの利用者。

(2) 令和元年度入館者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
総入館者数	33,209	6,383	4,247	6,215	7,669	4,353	4,435	4,451	2,554	2,706	3,256	3,263	82,741
展示観覧者数	2,614	2,086	1,114	1,444	2,559	1,162	1,541	1,355	708	979	1,106	330	17,088
有料観覧	2,402	1,596	857	1,280	2,275	1,066	972	879	270	335	453	297	12,682
無料観覧	212	490	257	164	284	96	569	476	438	644	653	33	4,316
無料スペース利用者	30,595	4,297	3,133	4,771	5,110	3,191	2,894	3,096	1,846	1,727	2,150	2,933	65,743

6 上越市博物館協議会

(1) 平成29年度～平成30年度の委員（任期2年）

①任 期 平成29年4月1日～平成31年3月31日

②委 員

分類	役職名	氏名	選出区分等
歴史博物館部会	委員長・部会長	川村 知行	学識経験者
	副部会長	清沢 聰	家庭教育の向上に資する活動を行う者
	委 員	浅倉 有子	学識経験者
	委 員	矢澤 健一	社会教育の関係者
	委 員	上原みゆき	市民公募に応じた者
水族博物館部会	副委員長・部会長	天野 和孝	学識経験者
	副部会長	関谷 伸一	学識経験者
	委 員	久保田郁夫	学校教育の関係者
	委 員	大山 賢一	学校教育の関係者
	委 員	飯川 敏夫	市民公募に応じた者

③活動記録

○平成29年度 第1回（平成29年7月12日 午後1時30分～）

会場：上越教育プラザ（大会議室・小会議室）

- ・平成29年度事業実施状況について
- ・平成30年度事業計画（案）について
- ・上越市立歴史博物館改修事業について
- ・越市立水族博物館の整備状況について
- ・上越市博物館協議会のあり方について

○平成29年度 第2回（平成30年1月15日 午後1時30分～）

会場：上越教育プラザ（中会議室）

- ・物館条例等の一部改正について
- ・国宝謙信公太刀収集事業について
- ・常設展示内容について

○平成30年度 第1回（平成30年6月20日 午後1時30分～）

会場：歴史博物館・水族博物館

- ・歴史博物館・水族博物館の視察

○平成30年度 第2回（平成31年3月8日 午後1時30分～）

会場：歴史博物館（講堂）

- ・平成30年度事業実施状況について
- ・平成31年度事業計画（案）について

(2) 令和元年度～令和2年度の委員（任期2年）

①任 期 令和元年7月1日～令和3年6月30日

②委 員

分類	役職名	氏名	選出区分等
歴史博物館部会	委員長・部会長	川村 知行	学識経験者
	副部会長	清沢 聡	家庭教育の向上に資する活動を行う者
	委 員	浅倉 有子	学識経験者
	委 員	斎藤 良人	社会教育の関係者
	委 員	増田小夜子	市民公募に応じた者
水族博物館部会	副委員長・部会長	天野 和孝	学識経験者
	副部会長	関谷 伸一	学識経験者
	委 員	松野 玲子	学校教育の関係者
	委 員	大山 賢一	学校教育の関係者
	委 員	岩井 文弘	市民公募に応じた者

③活動記録

○令和元年度 第1回（令和元年8月29日 午前10時30分～）

会場：上越教育プラザ（中会議室）

- ・開館1年間の事業結果について
- ・令和2年度の事業計画について

○令和元年度 第2回

新型コロナウイルス流行のため中止

○令和2年度 第1回（令和2年8月6日 午後1時30分～）